

仮設住宅用地造成



▲南三陸町は平地が少ないため、仮設住宅建設のためには新たな用地造成作業が必要だった。
陸上自衛隊北部方面隊が用地造成作業に当たった。

一刻も早い仮設住宅入居をと、多くの住民たちが待っていた。しかし、南三陸町はリアス式海岸の地形から、住宅建設に適した平らな土地が少なく、用地造成が課題となっていた。学校の校庭以外の平地は畑しかなく、畑に住宅を建てるには整地が必要だった。しかし、地元の建設業は瓦礫撤去に追われ、従事できる人も重機もなかった。町長は仮設住宅用地造成工事が自衛隊の災害派遣業務ではないとは知りながらも何とかお願いできないかと嘆願した。北部方面隊の施設大隊長は町の窮地を前に上級部隊に掛け合ってくれ、用地造成工事を引き受けてくれた。

大隊長は町長に「その代わりひとつだけお願いがある」と言った。それは1団地の用地造成が終わる度に、町長が現場に赴いて隊員たちに「ありがとう」と言葉をかけてほしいということだった。



▲施設隊長たちが仮設住宅用地を確認し、
整地計画について話し合う。

自衛隊の施設中隊が各所に分かれ、狭い用地を切り拓いては整地する地道な作業が、休むことなく続いた。条件が必ずしも良いとは限らない中、自衛隊は確かな技術で、迅速に仮設住宅建設の基礎を整えてくれた。

町長がすべての現場に通い、「みなさんの努力に感謝したい。ありがとう。」と伝え続けたことは言うまでもない。自衛隊の支援なしに仮設住宅の建設遂行はありえなかった。

写真提供 陸上自衛隊北部方面隊